公共施設のご案内 Public facility

12 小高交流センター 2-F

多世代交流と地域の賑わい創出を目的とした複合施設。地場産品が並ぶマルシェと地元出身者が経営するカフェや食堂などが出店。屋内遊び場や子育てサロンなどご自由にお使いいただけるようになっています。

休 月曜・(12/29～1/3)
※月曜祝日の場合は次の平日休館
住 本町2-28
☎ 0244-32-1124

13 小高区子どもの遊び場「NIKOパーク」 2-E

０歳から小学生までを対象とした遊具などを配置しており、年齢別に遊ぶエリアを分けているので、安心してのびのびと遊んでいただけます。

1日3クールの入替え制

午前の部	10:00～11:30
午後1の部	13:00～14:30
午後2の部	15:00～16:30

休 火曜・(12/29～1/3)
住 関場1-1
☎ 0244-44-2215

14 小高生涯学習センター「浮舟文化会館」 2-F

奥州相馬氏の居城であった小高城の別名「紅梅山浮舟城」にちなんで命名。館内には現代文学をリードした埴谷雄高氏・島尾敏雄氏を記念した文学資料館があります。

休 12/29～1/3
※資料館は月曜休館
住 本町2-89-1
☎ 0244-44-3049

小高区の最新店舗情報は別紙、「おだか街あるき MAP」や ＨＰ でご案内しています。最新のお食事処やお土産、アクティビティなど情報盛りだくさんです。

交通のご案内 Access

電 車

東京駅 → 特急ひたち → いわき駅 → 常磐線 → 小高駅（約３時間４０分）
仙台駅 → 常磐線 → 原ノ町駅 → 常磐線 → 小高駅（約１時間４０分）

バ ス

仙台駅 → 高速バス → 原ノ町駅 → 常磐線 → 小高区（約２時間１０分）
福島駅 → 高速バス → 原ノ町駅 → 常磐線 → 小高区（約２時間１０分）

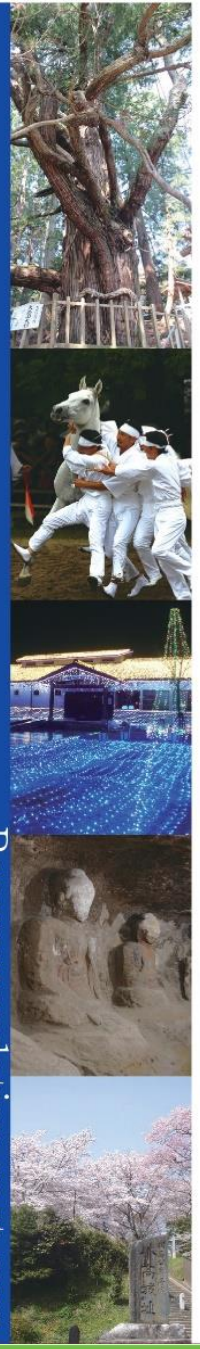
車

東京 → 常磐自動車道 → 浪江 IC → 国道 114 号線 → 国道６号線 → 小高区（約３時間）
仙台 → 仙台東部道路 → 常磐自動車道→南相馬 IC → 県道 120 号線 → 小高区（約１時間２０分）

タクシー ㈲富士タクシー
TEL 0244-44-2543　営業 7:00 ～ 23:00
休日 元日はお問い合わせください。

お問合せ先 **小高観光協会**
〒979-2195 福島県南相馬市小高区本町2-78
（小高区役所地域振興課内）
TEL. 0244-44-6014　FAX. 0244-44-6047
小高観光協会ＨＰ　https://odaka6014.jp
メールアドレス　info@odaka6014.jp

2023. 4



Recommendation spot map

おだか

ODAKA

ガイドマップ
GUIDE MAP

10 国指定史跡 6-G

浦尻貝塚（うらじりかいづか）

浦尻貝塚は、約5,700～２,８00年前の約３,０００年続いた、貝塚を伴う縄文時代の集落跡です。貝塚からは、貝がらや魚の骨などが出土し、浦尻貝塚周辺の多様な自然環境を利用した縄文人の暮らしの変化を知ることができます。

貝塚観察館について

貝塚観察館では、5,500～5,000年前の500年間作り続けられた貝塚を発掘調査したそのままの状況で見学できます。

縄文人が、どんな貝や動物を食べていたのかが、よく分かります。ぜひご覧ください。

▲貝層剥ぎ取りの立体展示

「貝塚観察館」公開について
https://x.gd/tMoca
5,700年前から"おだか"？がんばりすぎず、豊かに生きた浦尻縄文人。
https://x.gd/dOvcH

11 国指定史跡 4-E

薬師堂石仏（やくしどうせきぶつ）**・観音堂石仏**（かんのんどうせきぶつ）**・阿弥陀堂石仏**（あみだどうせきぶつ）

日本三大磨崖仏に数えられている小高区を代表する史跡です。

薬師堂石仏は、最も残りがよく、岩窟内に立体的に表現された石仏が６体、線彫りの石仏が２体表現されています。高さは２～３mほどで、朱色などの色彩が一部残っています。観音堂石仏には、千手観音が表現されています。高さ９mを誇り全国でも最大級の千手観音像ですが、胴体の殆どが崩れており、その全体像は、不明です。阿弥陀石仏は、その面影を僅かに残します。これら石仏の製作時期は、その表現方法から平安時代の前半と考えられています。

▲薬師堂石仏

11 県指定天然記念物 4-E

大悲山の大杉（だいひさんおおすぎ）

薬師堂石仏の前庭石段そばにあり、目通り８．４m、高さ４５mを測る県内有数の大木です。樹齢は、千年に及ぶものと推定され、薬師堂石仏が作られたころに、育ち始めた木であると考えられます。福島県の天然記念物に指定されています。

11 大蛇物語公園（だいじゃものがたりこうえん） 4-E

歴史と自然を満喫できる空間として整備された公園で、地元に伝わる大蛇伝説が描かれている塀や大蛇のモニュメントなど、大悲山の歴史を感じながら散策することができます。

国指定重要無形民俗文化財

相馬野馬追（そうまのまおい）

——SOMANOMAOI——

相馬野馬追は、相馬中村神社・相馬太田神社・相馬小高神社、３つの神社の祭礼で、旧相馬藩領において出陣式や神旗争奪戦（しんきそうだつせん）、野馬懸（のまがけ）などを行います。

その起源は、相馬藩始祖の平将門（たいらのまさかど）が下総国小金原に馬を放して繁殖させ、毎年それを追い上げ、野馬を神馬として妙見神社に奉納した神事にあり、一千有余年の歴史を誇る伝統行事です。

「歴代相馬藩侯墓前祭（れきだいそうまはんこうぼぜんさい）」

日時：５月第四金曜日
場所：同慶寺（どうけいじ）

相馬家菩提寺である同慶寺において、相馬野馬追に出陣する騎馬武者たちが、武運長久（ぶうんちょうきゅう）と武勲（ぶくん）を祈願します。

▲墓前祭式典

小高区内での行事

「御発輦式（ごはつれんしき）」（出陣式）

日時：５月最終土曜日
場所：相馬小高神社

出陣は、相馬中村神社・相馬太田神社・相馬小高神社の各神社で行われます。

相馬小高神社では、奥の院（おくいん）への礼螺奉吹（れいがいほうすい）後に小高神社本殿前で式典が執行されます。

▲出陣式式典

「宵乗（よいの）り行列」（お繰り出し）

日時：５月最終土曜日
場所：小高駅前通り　他

出陣式後、小高の町なかを行列し、雲雀ヶ原（ひばりがはら）祭場地を目指します。

「帰（かえ）り馬行列」（御還幸（ごかんこう））

日時：５月最終日曜日
場所：小高駅前通り　他

雲雀ケ原祭場地での本祭りを終えた騎馬が、御神興のお供をして小高神社に帰還します。

▲帰り馬行列

「火（ひ）の祭（まつり）」

日時：５月最終日曜日
場所：小谷橋周辺及び前川堤防周辺

雲雀ケ原祭場地から御神興や騎馬が無事に帰ることを願い、住民が沿道に提灯や松明をかざして道案内、慰労の意を表したことが始まりです。

「野馬懸（のまがけ）」

日時：５月最終月曜日
場所：相馬小高神社

相馬野馬追の神髄である野馬懸は、「上（あ）げ野馬（のま）の神事」ともいわれ、相馬小高神社境内に設けた竹矢来（たけやらい）の中に騎馬が裸馬を追い込み、白装束で身を固めた御小人（おこびと）が素手で荒駒を捕え神前に奉納する古式に沿った行事です。

相馬藩始祖の平将門（たいらのまさかど）により始められた野馬追を古来の姿で受継ぎ、絵馬でなく本当の生き馬を神に捧げる古い習慣を昔ながらに残しています。

▲裸馬の追込み

▲裸馬を捕える

南相馬市の花／さくら

南相馬市の木／けやき

小高区 ガイドマップ
Guide map

南相馬市の鳥／ひばり

南相馬市の魚／さけ

南相馬市の昆虫／ほたる

1 相馬小高神社（小高城跡） 2-F

武家文化の一端を受け継ぐ伝統行事・相馬野馬追の「野馬懸」の祭場地として知られます。相馬氏代々の守護神・妙見を祀った由緒ある神社で、明治時代にあった小高の大火事で焼失しましたが、豪勢な造りの本殿が再建されています。

初詣には、多くの参拝者で賑わい、春には、桜が咲き誇る名所としても知られています。

2 同慶寺 2-E

境内には、江戸時代の相馬家一族が葬られています。整然と立ち並ぶ五輪塔などを中心とした相馬家墓地と相馬家一族の位牌を収めた霊堂があります。

中でも１６代当主義胤は、甲冑をまとい、北方の伊達領に向かって葬られたと伝えられています。

3 蛯澤稲荷神社 4-G

元は原町区石神にあり、南北朝時代に戦火を逃れ、現在の小高区蛯沢地区へ移ったと伝えられています。祭神は、衣食住の神「倉稲魂命」ですが、古くから漁業者の信仰を集めており、明治７年に奉納された地引大漁図（絵馬）と江戸時代・明治時代に造られた和船模型２隻は、福島県指定重要有形民俗文化財になっています。

4 益多嶺神社（甲子大国社） 2-F

出雲大社より御分霊を勧請された神社で、古来「甲子大国社」と呼ばれています。

大国主命、少彦名命を主祭神とし、閑雅な境内で御神慮に浴される崇敬者が多く、福の神、医薬・医療、農工商漁の神として信仰されています。

5 日鷲神社 4-G

鎌倉時代の末期、相馬重胤に供奉して下総国から下向した三社のうちの一社です。始めは太田村に奉祀されましたが、1364 年に奉遷され、現在の地に鎮座することになったと伝えられています。古来、相馬野馬追の野馬懸に使用した御神水を汲んだ古井戸が現存しています。

御祭神の天日鷲命は、勝負の神様、産業の神様、熊手の神様として信仰されています。例大祭は、４月10 日、御幣束祭（新穀感謝祭）は、11 月３日に斎行されています。

6 星神社 6-F

その昔、標葉氏が治めた標葉郡内の鎮守星宮大明神として崇敬されました。明治元年に神仏分離令によって星神社に改名し、明治５年に行津・下浦・上浦３か村の村社に列せられました。境内には、目通り約7m、高さ30mを誇る「行津の大杉」があり、市の天然記念物に指定されています。

7 精霊の木 2-C

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の犠牲者の鎮魂、地域の復興や再生を願う「光のモニュメント2020」で名付けられた一本の柿の木です。ゼロから一歩進む、そんな復興への願いが込められています。

8 鈴木家住宅 2-F

憲法学者で日本国憲法の草案を作ったとされる鈴木安蔵の生家です。大正時代後期に建てられた商店に伴って造られた居宅で、当時の商人の暮らし方を伝える建物です。室内も多様な造作を施し、建具を含めて良好に残っており、大正から昭和初期にかけての文化の香りがする建物です。

9 髙島家住宅コンクリート蔵、門及び塀 2-E

蔵は昭和初期の建造物で、当時最先端のコンクリート造りの技術を用い、階段と屋上へのテラスと手すりが立体的に組み合わさった類まれな姿をしています。入口は、和風の土蔵、１階は倉庫、２階は洋風の漆喰塗意匠でまとめた蔵座敷となっており、和洋が混在し、随所に手の込んだ左官仕事が施されています。また、透かしの入った赤煉瓦の門と塀もコンクリート蔵と鮮やかな対比を見せ、小高の特異な建築文化を象徴しています。